

FOR IMMEDIATE RELEASE

<プレス・リリース>

配信日 2021 年 12 月 8 日

プレス担当：

マリカ絵美 (EMarica@japansociety.org)

アリソン・ロッドマン (ARodman@japansociety.org)

ジャパン・ソサエティー (JS)
舞台公演部 2021-22 年度シーズン

コンテンポラリー・ダンス

『コンテンポラリー・ダンス・フェスティバル：
日本と東アジア』

Contemporary Dance Festival: Japan + East Asia

2022 年 1 月 14 日 (金) + 15 日 (土) 午後 7 時 30 分開演
全 2 回公演
(全作品北米初演)

於：ジャパン・ソサエティー内 劇場
(333 East 47th Street, New York, NY 10017)

ジャパン・ソサエティー (JS) 舞台公演部は、1 月 14 日、15 日の 2 日間に渡り、「コンテンポラリー・ダンス・フェスティバル：日本と東アジア」を開催します。舞台公演部の 2021-2022 年度シーズンのプログラムとして開催されるこの「コンテンポラリー・ダンス・フェスティバル」は、JS 芸

術監督の塩谷陽子により厳選された、革新的且つ完成度の高いダンス作品を、日本、台湾、韓国からそれぞれ1作品ずつ招聘します。過去約20年に渡り、本プロジェクトは計18回のフェスティバルを通して、地球の反対側で活躍する現代を代表するアーティストたちをニューヨークの観客に紹介してきました。隔年開催イベントとして続いてきた伝統ある本フェスティバルは、当初2021年1月にニューヨークで開催を予定していました。新型コロナウイルスの感染拡大により一度は開催が見送られましたが、JSではこの秋よりライブ（生）公演を再開し、本フェスティバルの実施も可能となりました。この冬、国際色豊かな振付家とダンサーたちによる斬新な作品で、ライブ・パフォーマンスの復活を祝い、コンテンポラリー・ダンスの魅力を堪能していただきます。

「コンテンポラリー・ダンス・フェスティバル：日本と東アジア」では、北米初演となる下記の3作品をお届けします。

- 『**Complement**』（韓国）

チクタクという時計の音に合わせ、まるでぜんまい式の玩具のような動きを用いたコミカル且つデジタル技術を駆使した『Complement』は、韓国のデュオ「チェ X カン・プロジェクト」による作品です。

- 『**Touchdown**』（台湾）

数学者から振付家に転身した鄭 皓^{チェン・ハオ}（Hao CHENG）のソロ・パフォーマンス『Touchdown』は、黒板に見立てた舞台上で、反復的な円の動きを用いて量子物理学の世界を探索します。

- 『**阿吽山水 (A HUM SAN SUI)**』（日本）

舞踏ダンスを基礎とする鯨井謙太朗（笠井叡・天使館出身）と奥山ばらば（麿赤児・大駱駝艦出身）のデュオ・プロジェクト「KENTARO KUJIRAI & BARABBAS OKUYAMA」による『阿吽山水』では、同じ舞踏というジャンルでも異なる2人のアーティストが「阿吽」というテーマを体現します。

なお、公演両日、午後6時45分よりJSロビーにて、台湾で最も評価の高いダンスカンパニーの1つ「HORSE」の創設者である蘇威嘉^{スー・ウェイチャ}（Wei-Chia SU）の振り付けによるソロ・パフォーマンス『FreeSteps - NiNi^{ニニ}』が、特別プログラムとして実施されます。チケットは不要ですが、人数制限が120名までとなっています。

【リスティング・インフォメーション】

コンテンポラリー・ダンス

『コンテンポラリー・ダンス・フェスティバル：日本と東アジア』

Contemporary Dance Festival: Japan + East Asia

全作品北米初演

日時：2022 年 1 月 14 日（金）午後 7 時 30 分（終演後「MetLife Meet-the-Artists」レセプションあり）

2022 年 1 月 15 日（土）午後 7 時 30 分（終演後「アーティストの質疑応答」あり）

両日、午後 6 時 45 分から特別パフォーマンスあり

チケット料金：一般 \$ 30 / JS 会員 \$ 25

ボックスオフィス：212-715-1258

月曜～金曜 午前 9 時～午後 5 時

または JS ウェブサイト www.japansociety.org

会場：ジャパン・ソサエティー内、劇場（333 East 47th Street, New York, NY 10017）

【作品解説とアーティスト・プロフィール】

『Complement』（韓国）

London Korean Links の Philip Gowman 氏が“風変りなファンタジーが脳をフル回転させる”と評した『Complement』は、2 人のダンサーによるライブ・パフォーマンスと、それをカメラマンがライブで撮影する映像を組み合わせるという技術的にも複雑な作品。ダンサーの後ろに配置されたモニターに、撮影されたばかりのパフォーマンス映像が映し出されると、その映像の再生にかさねてライブのパフォーマンスが行われる。同じようで少しずつ違うパフォーマンスが繰り返される中、ダンサーの複雑な動きが混沌と発展していくのを観客は目撃することになる。チェ X カン・プロジェクトによる本作は、横浜ダンスコレクション・コンペティション 2018 で審査員賞を受賞し、その後英国ロンドンの The Place、チェコ共和国オロモウツの Flora Theater Festival にも招聘された。2019 年に本作は、Korea National

Contemporary Dance Company によるレパートリー開発プロジェクト「Step Up」での上演に選ばれ、『A Complement Set - Disappearing with an Impact』という題名で開発された新作として発表された。

振付&パフォーマンス：チェ X カン・プロジェクト（チェ・ミンスンとカン・ジアン）

舞台監督：チョ・ユジン（Eujin Jo）

プロデューサー：パク・シネ（Sin Ae Park）

チェ X カン・プロジェクト：

チェ・ミンスン（Choi Min-sun）とカン・ジアン（Kang Jin-an）によって 2015 年に設立された、韓国のソウルをベースに活動するグループ。グループのミッションは、動きを創造し、多様性のある実験を通して外的な要素を身体につなぐプロセスにフォーカスするための直感的な方法を模索すること。2010～2016 にかけて、Korea National Contemporary Dance Company で活動した後、チェとカンは彼ら独自のグループとして活動を開始。2015 年、『Basic Dance』が Seoul Dance Collection の最優秀振付賞を受賞。

『Touchdown』（台湾）

『Touchdown』は、数学者から振付家に転身した鄭^{チェン・ハオ}皓による、モノローグとダンスを融合したパフォーマンス。2019 年に初演された本作は、振付家自身の苦悩や成功を描くにあたり、生きることの比喩として量子物理学を用いている。鄭の数学者としてのユニークな経歴が、抽象的な概念と生身の表現という 2 つの視点を持つことを可能にし、科学と詩的なムーブメントの静かながらもスリリングな融合からなるダイナミックなソロ・パフォーマンスを作り上げている。黒板のような舞台とチョークを使用し、鄭は機敏で感情的なムーブメントを絶え間なく記録し、パフォーマンス・スペースを徐々にビジュアルアート・インスタレーションへと変えていく。

振付&パフォーマンス：鄭^{チェン・ハオ}皓（Hao CHENG）

ドラマトゥルク：Yu-Chun Chen

照明デザイン：Ke-Chu Lai

音響デザイン：Chao-En Cheng

舞台監督：Chih-Wei Tseng

チェン・ハオ

鄭 皓 (Hao CHENG) :

鄭は 2019 年に台湾で Incandescence Dance を設立し、動きの中の詩的要素と科学・数学的思考を模索するようなコンテンポラリーダンスを創作している。科学と芸術は2つの異なる分野として捉えられているが、鄭は世の中のあらゆるものに好奇心を持つことは、科学と芸術という領域両方を追求することに繋がると考えている。

『阿吽山水』 (日本)

デュオ『阿吽山水』では、鯨井謙太郎と奥山ばらばが舞台上の光に浮かんでは消える幻想的なステージングが、観客の記憶に長く残る。FUJIIIIIIIIITA による不思議な雰囲気醸し出す音響デザインに合わせ、2人の舞踏ダンサーが時に身をよじるながら一体化し、時にまったく別の個体としてステージを駆ける。当初は二者の初協働プロジェクトとして 2018 年に創作され、鯨井が振付、奥山が踊るソロ・パフォーマンスであった。“舞踏の世界に新風を吹き込んだ”と称された本作を機に、2019 年 4 月に共同プロジェクト「KENTARO KUJIRAI & BARABBAS OKUYAMA」というデュオ名で、舞踏の次世代アーティストたちへの新たな可能性を生むための活動を開始。その後、2019 年 5 月に埼玉で開催された J-K (Japan-Korea) Duo Dance Festival にて、共同振付した『ヒノシズク』が上演され、同年 11 月には韓国ソウルのフェスティバルでも上演された。その間、2019 年 8 月には韓国の由緒ある ChangMu Performing Arts Festival より、『阿吽山水』上演の招聘を受け、そのスタイリッシュでエネルギーに満ちたコンテンポラリー舞踏のパフォーマンスはソウルで好評を博した。

振付 & パフォーマンス：鯨井謙太郎、奥山ばらば

音楽：FUJIIIIIIIIITA

舞台美術：TOJU

衣装：富永美夏

鯨井謙太郎 (オイリュトミスト・ダンサー) :

1980 年宮城県仙台市生まれ。2002 年より笠井叡に師事。オイリュトミーショーレ天使館第三期修了。2006 年より天使館の国内外の舞台に数多く出演する。2010 年、ユニット「CORVUS(コルヴス)」を定方まことと共に結成。東京、仙台を中心に舞台公演活動、ワークショップ、ラジオ放送室など多面的な活動を行う。2015 年、自身によるプロジェクト「KENTARO KUJIRAI コンペイトウ」を始動。『毒と劔』(2015)、『灰のオホカミ』(2016-2018)、『桃 Spooky action at a distance!!』(2017)など、さまざまな表現のボーダーを越境した作品を精力的に発表する。詩人・城戸朱理や、写真家・高木由利子とのコラボレーションな

ど、舞台芸術以外での活動も多く行う。近年は ISSEY MIYAKE、KMRii のイメージモデルとしても活躍。

奥山ばらば（舞踏家）：

山形県出身。2001 年、舞踏集団 大駱駝艦に入艦、鷹赤兒に師事。以降、大駱駝艦の全ての本公演に出演する。自身の振付作品として「さぐらんぼうい」(2009)、「磔」(2013)、ソロ作品「うつしみ」(2016)を発表。2016 年に大駱駝艦を独立。踊り手としてただの一点として舞台上にどう立つかに更に挑むべく、ソロ作品「TRIGGER POINT」(2016)、「カバネガタリ」(2017)、「サソハレテ」(2018)を続けて発表する。また、これまで JOSEF NADJ、笠井叡、平山素子、笠井瑞丈、劇団唐組、Project Nyx 等の舞台作品や各種の国際ダンスフェスティバルにも参加。舞踏による身体法を背骨にしつつも、ダンスや演劇、映像作品などジャンルにとられない活動を展開しながら、カラダの持つ緊張感と強度を自らの活動のテーマに置いて更なるカラダの可能性を模索している。

『FreeSteps - NiNi』（台湾）

本作は^{スー・ウェイチャ}蘇威嘉（Wei-Chia SU）が、演劇という枠を超えたダンスを作ることを目的とした 10 年間に渡る振付プロジェクトシリーズの 6 年目に創作した作品である。同プロジェクトでは観客が街灯の下で踊るダンサーたちに遭遇するという枠組みのもと、その時の気温や明かり、風景、そして通りすがりの人までもが、ダンサーのクリエイションの構成要素となる。ダンサーたちの身体の異なる輪郭や動きは、街灯の鋭い光の影により浮き彫りになる。JS のプレゼンテーションでは、観客は午後 6:45 から JD ロビーでソロ・パフォーマンス『FreeSteps - NiNi』を観劇することができる。

振付：^{スー・ウェイチャ}蘇威嘉（Wei-Chia SU）

パフォーマンス：^{ファン・ユーチン}方好婷（Yu-Ting FANG）

照明&舞台デザイン：Chia-Ming Liu

音響デザイン：Yannick Dauby

プロデューサー：Wen Huang

^{スー・ウェイチャ}蘇威嘉（Wei-Chia SU）：

台湾の高雄市出身で、2004 年に HORSE を共同設立。彼の数々の振付やコラボレーションの経歴には、グループ共同制作の『Velocity』（第 6 回 Taishin Arts Awards 受賞）、自伝作品『2 Men』（Wu-kang Chen とのコラボレーションで、2013 年 Kurt-Jooss-Preis 最優秀賞お

よび Audiences' Choice 賞受賞）などがある。2013 年にローンチした彼の現在も進行中のプロジェクト「FreeSteps」は、身体の輪郭や特徴、リズム、音楽、光などの関係性を探求している。Les Hivernales - CDCN d'Avignon での公演では、“想像力を、より不明瞭で心地よい深みに導くような驚きの連続だ”との評価を得た。

【JS コンテンポラリー・ダンス・フェスティバルについて】

1997 年から 2019 年まで、JS の「コンテンポラリー・ダンス・ショーケース」は、毎年恒例のカンファレンス「Association of Performing Arts Presenters (APAP)」の開催に合わせた日本と東アジアの振付家の紹介や彼らの国際的なキャリア構築のサポートなど、日本と東アジアの振付家たちにとってインキュベーターとして重要な役割を担ってきました。日本の振付家やカンパニーを紹介する主要なプラットフォームとなった「ダンス・ショーケース」は、2008 年には日本だけではなく台湾や韓国など東アジア地域のアーティストや作品を広く紹介すべく拡大しました。多くの「ダンス・ショーケース」卒業生が、その後、Jacobs Pillow Dance、Walker Art Center、The Kennedy Center、The Joyce Theater などの主要な劇場・ダンス専門団体などでパフォーマンスを行なっています。本プログラムでは何十ものデビュー公演やプレミア上演を通して、山崎広太、金森穰率いる Noism、故室伏鴻率いる Ko & Edge Co.、チェルフィッチュなど、後に国際的に評価されることになる数多くのアーティストを輩出してきました。開始から 20 年が経った今、JS 舞台公演部の人気イベントである本プログラムは 2019 年にその名を「コンテンポラリー・ダンス・フェスティバル」に変更し、日本と東アジアのコンテンポラリー・ダンス・アーティストとその作品を招聘し、周知するというミッションの更なる遂行を目指しています。

【JS 舞台公演部について】

JS 舞台公演部は、1953 年の創部以来、雅楽、能、歌舞伎、人形劇、三味線や落語などの古典芸能から最先端の現代劇、実験音楽やポップ・ミュージック、コンテンポラリー・ダンスまで、あらゆるジャンルの舞台公演を企画し、当館内劇場にて主催上演し、これまで 700 種に近いプログラムを米国の観客に紹介してきました。また、招聘したアーティストや団体のために巡回公演（ツアー）をプロデュースすることで、ニューヨークを越えた北米全土に対して日本の舞台芸術を紹介する役割をも果たしています。日本の優秀な若手アーティストにとっては国際的キャリアの登竜門として、また米国人アーティストには新作委嘱や交換レジデンスなどを通じてより深い日本理解の機会を与える貴重な機関として、日米の舞台芸術界に比類のない貢献をしています。

JS 舞台公演部は、2021 年秋シーズンおよび 2022 年冬・春シーズンのプログラムとして、In-Person の公演を実施しております。2021 年秋シーズンは、ローカルのアーティスト・コミュニティにフ

フォーカスし、日本や日本文化に深い関わりを持つニューヨークベースの3アーティストによる下記3作品を上演しました。

- 現代演劇 『ストーリー・ボックス』（作・出演：スージ・タカハシ、演出：クリスティン・マーティング：2021年9月11日）
- 現代演劇『The Nosebleed-鼻血』（作・演出 アヤ・オガワ：2021年10月1日～10月10日）
- マイクロスコプ・ライブ・シネマ・シアター 『SHEEP #1』（作・演出 高橋幸世／Nekaa Lab：2021年11月4日～11月7日）

2022年冬・春シーズンのプログラムでは、日本の国際的なアーティストの招聘を再開し、下記のプログラムを実施します。特に来春には、先住民族の文化に焦点を当て、日本の最南と最北の県である沖縄と北海道より、それぞれ先住音楽や踊りを紹介します。

- 現代日本戯曲・英語版リーディング・シリーズ第16弾『こしらえる』（作・松村祥子、演出・ジョーダナ・デ・ラ・クルーズ：2021年12月6日）
- 『コンテンポラリー・ダンス・フェスティバル：日本と東アジア』（本プログラム）
- 沖縄返還50周年記念 『時を超えた波音ー沖縄の伝統舞踊と音楽』（2021年3月）
- コンサート『OKI：アイヌの音楽』（2021年5月）

【JSについて】

JSは、日本の芸術、文化、ビジネス、社会をニューヨーク及び世界の人々とつなぐ全米随一の規模を誇る日米交流団体であり、芸術と文化、公共政策、ビジネス、サステナビリティ、教育における革新的なプログラムを通じて、ニューヨーク市歴史的保存建築に指定されているJS本部ビルからだけでなく、オンライン形式でも発信しています。1907年以来、JSでは「きずな（絆）」の考えのもとに、革新的な次世代クリエイターの支援、日米相互理解の促進、日本の多様性を深く理解しようと願う世界の人々にとって信頼できる案内役となること、そして日米間の相互理解の促進と絆を深めることを目指しています。拠点とするニューヨーク市でのつながりを一層強化することに加え、米国内外での新たな架け橋の構築にも取り組んでいます。詳細はwww.japansociety.org をご覧ください。

JSは今年、ニューヨークのランドマークである本館設立50周年の記念して新しいロゴマークを導入いたしました。JSが文化や人種、時を超えてつながりを作っていく基盤となることを願い、「JS」の文字の重なりと線と形の連結を用いて、絆というコンセプトを打ち出しています。

公式 SNS アカウント：

Facebook：facebook.com/japansociety

Instagram：[@japansociety](https://www.instagram.com/japansociety) and #japansociety

Twitter：[@japansociety](https://twitter.com/japansociety)（英語）／ [@js_desu](https://twitter.com/js_desu)（日本語）

その他、詳しい情報は弊社ウェブサイト <http://www.japansociety.org> をご参照ください。

住所 333 East 47th Street (1 Avenue と 2 Avenue 間), New York, NY 10017

最寄駅は地下鉄、4/5/6 番ライン、7 番ラインのグランドセントラル駅、あるいは E か M ラインのレキシントン街・53 丁目駅。代表電話 212-832-1155 / ウェブサイト www.japansociety.org

取材申し込み：

上記公演の取材をご希望の方は、事前に必ずプレス担当：マリカ／ロッドマンまで E メールで (EMarica@japansociety.org / ARodman@japansociety.org) お申し込みください。尚、プレス席には限りがございます。満席の場合はご容赦ください。

2021-2022 年度の JS 舞台公演部は、
以下の財団・基金・企業および個人より支援・後援をいただいています。

Support for 2021-2022 Performing Arts Season

Lead Sponsor: MetLife Foundation. This season is made possible, in part, by public funds from the New York City Department of Cultural Affairs in partnership with the City Council and the New York State Council on the Arts with the support of the Office of the Governor and the New York State Legislature. Major support is generously provided by Doug and Teresa Peterson, with endowment support from the Lila Wallace-Reader's Digest Endowment Fund and the Endowment for the Performing Arts, established with a leadership gift from the Doris Duke Charitable Foundation. Additional support is provided by Helen and Kenneth A. Cowin, Dr. Jeanette C. Takamura, Dr. and Mrs. Carl F. Taeusch II, Mr. Alan M. Suhonen‡, Sarah Billingham Solomon and Howard Solomon, Paula S. Lawrence, Dr. Stephen and Mrs. Michiko Levine, Marjorie Neuwirth, Hiroko Onoyama, Lyndley and Samuel Schwab, Nora and David Tezanos, and Nancy and Joe Walker. Transportation assistance is provided by All Nippon Airways Co., Ltd. Yamaha is the official piano provider of Japan Society. MetLife Meet-the-Artists Reception is provided by MetLife Foundation.
‡ In memoriam.

Contemporary Dance Festival: Japan + East Asia *is supported, in part, by Arts Council Tokyo (Tokyo Metropolitan Foundation for History and Culture), the Taipei Cultural Center in New York and The Harkness Foundation for Dance. Complement is made in collaboration with Korea Dance Abroad.*